

2018年11月から形成外科外来が開設され、2019年4月から担当いたします。“形成外科”という診療科には馴染みが薄い方もみえると思いますので、当科外来で扱う主な疾患について説明いたします。

形成外科で扱う疾患

できもの

全身の浅いところにあるものが対象です。「何年も前からあるけどそのままにしていた」「だんだん大きくなってきた」「見た目が気になる」「癌ではないか心配」「赤くなったり膿がでることがある」「痛みがある」などの症状がある場合は御相談ください。

治療方法として、できものを除去する手術を行います。取り除いたできものは、病理検査で、良性か悪性かの診断を行います。



きずあと

「目立つ部位の傷跡」「赤みや痒みがある」「傷跡が突っ張る」などの症状がある場合は御相談ください。

治療方法としては、切除や注射などを行います。



眼瞼下垂症

加齢に伴い、まぶたが開けづらくなることがあります。長年のコンタクトレンズ使用や白内障手術が原因となることもあります。「まぶたが下がってきた」「いつも眠そうだとされる」「信号など、上の方が見づらい」「上を見るときは顎をあげてしまう」「上まぶたの皮膚が伸びてきた」などの症状がある場合は御相談ください。

やけど

やけどは適切な処置を行わないと、本来不要な手術が必要になったり、やけど痕が突っ張って関節が動かせなくなったりします。やけどをした際は、すぐに冷やして受診してください。

陥入爪

足の親指の爪が食い込んで、痛みや排膿などの症状を起こします。「足の爪が食い込んで痛い、赤くなっている」などの症状がある場合は御相談ください。



治療方法として、爪の変形の矯正、外科処置などを行います。爪の変形が強い場合は、クリップなどを使用して爪を矯正します。また、炎症がある場合は、爪を部分的に切除することもあります。

以上、主な疾患について説明いたしました。上記以外のことでもお困りのことがあれば、ぜひ外来にいらしてください。

専門外来：水藤医師の診察は第1・3・5 木曜午前で
予約診察となります